

グローバルCOEプログラム「コンフリクトの人文科学国際教育研究拠点」
「コンフリクトの人文科学」セミナー 第3回

紛争転換の諸類型と地域立脚型 ADR の世界的動向に関する研究：
「コンフリクトの人文科学」における共同研究の実施にあたって

講師：石田慎一郎（大阪大学大学院人間科学研究科特任助教）

要旨：本発表は、次の目的による共同研究（法人類学・刑事訴訟法・開発法学）の方針について述べる。司法改革・法整備支援の文脈で、ADR（Alternative Dispute Resolution）の理論と実践が世界的に拡大している。地域に根付いた調停モデル（地域立脚型 ADR）開発を目指す場合、当該地域の法文化研究の知見を要請することがある。本研究では、（１）対争、争論、混争を含む包括概念としての紛争を対象にする。（２）一般に ADR は民事司法分野に議論が集中する傾向があるが、刑事司法分野における修復的司法、さらには平和構築分野における non-violent alternatives をも含む「オルタナティブ・アプローチ」を広く研究対象にする。（３）「紛争解決」をめぐる政策モデルや、「紛争処理」をめぐる記述モデルとは異なる、「紛争転換」をめぐる実践モデルに焦点を合わせ、アジア・アフリカ諸国におけるコンフリクト諸問題の「転換」に向けた実践的提言を目指す。

講師略歴：1974 年生まれ。専門は法人類学。2005 年に東京都立大学大学院社会科学部で博士号取得。現在、大阪大学大学院人間科学研究科特任助教。ケニア共和国イースタン州にて社会人類学調査をおこなう。主な論文に「慣習婚は如何にして想起されるか--ケニア・グシイ社会における埋葬訴訟記録の分析」『民族学研究』67 巻 2 号(2002 年)、「紛争過程分析における千葉理論の所在--法規則・法前提のダイコトミーをめぐる方法論的提言」『法社会学』64 号(2006 年)、「ADR とメノナイト--アジア・アフリカ諸国における多元的法体制の新しい展開」『法律時報』79 巻 12 号（2007 年）などがある。

日時 2007 年 11 月 8 日（木） 15:00 ~ 17:00

会場 大阪大学大学院人間科学研究科（吹田キャンパス）
東館 105 教室 （参加無料）

東館は、万博外周道路側の新築の別館です。
大阪大学大学院人間科学研究科（吹田キャンパス）への交通アクセスは <http://www.hus.osaka-u.ac.jp> をご参照下さい。

問い合わせ先：
大阪大学大学院人間科学研究科
人類学研究室
e-mail globalra@hus.osaka-u.ac.jp
電話 06-6879-8085
06-6877-5111

